

## 政策・施策体系骨子(案)と委員意見対比表【活力分野】

政策	施策	主な取り組み	委員意見
1 変化に対応した強い農林水産業の創出	(1) 構造改革の更なる加速	①変化に対応した先駆的な経営体の育成	・地域の農地を守っていくのは集落営農が中心だが、経営の実態は補助金・交付金頼み。自立できるように経営改革が必要である。
			・農業は経営者と労働者が一緒。農業の将来を考えた場合、経営者と労働者を分離して、雇用型の農業を志向していく必要があるのではないか。
			・農業は事業継承がうまくいっていない。経験豊富な農家と新しく就農しようとする人をうまくマッチングする仕組みを作ってはどうか。良いところを受け継ぎながら、ITの活用など新しい技術も積極的に使っていくことも必要。
			・担い手への優良農地の斡旋が必要と思う。早い段階で仕組みづくりを。
			・ある程度の規模がなければ後継者は生まれない。最低50頭規模以上の経営体を育成してもらいたい。そのために、リース畜舎は取り組みやすい形であるので、進めて欲しい。
			・農業でも一定規模になると雇用が必要。働ける人口の少なくなった農村部が活力を取り戻すためには、一緒に働いてくれる外国人労働者、実習生の力を活用していかなければならないと思う。
		②将来を担う新たな経営体の確保・育成	・就農学校の取組は県内各地で始まり卒業生が就農しているが、まだまだ少ない。もっとスピードを上げて新規就農者を確保していかないと、今の人口減少社会では担い手の確保が追いつかないのではないか。
			・新規就農した若い人たちが子育てして住居を持つと考えたとき、どのくらいの所得が必要なのか、その点を含めた新しい就農計画の提案が必要。
			・親の後を継いだ新規就農者にも、外部から来た新規就農者と同様の手厚い支援ができないか。
			・農村部は労働力が少ない。集落営農法人等の土地利用型の担い手と、経営規模の大きい個人的・企業的な担い手が連携することで解決できないか。
			・農村では高齢者の活用も考えなければならない。
			・農業は事業継承がうまくいっていない。経験豊富な農家と新しく就農しようとする人をうまくマッチングする仕組みを作ってはどうか。良いところを受け継ぎながら、ITの活用など新しい技術も積極的に使っていくことも必要。
			・肉用牛農家も、ある程度の規模で経営していても後継者がいないところがある。その場合は就農希望者とのマッチングが必要ではないか。また、新規就農対策と後継者対策を一緒にやっていると、後継者対策も進むのではないか。
			・Uターンして集落を守ってもらう一つの方策として、県外に出て行っている人でも、本籍地を残している人は郷土に戻ってくる意識があるのでは。そういう人に声をかけるのも手ではないか。
		③新たな需要を獲得する戦略的な海外展開	・トマトの海外輸出はこれから考えていかなければならない。
			・海外の需要を取り込むには、それに取り組む人が一番重要。語学ができて、その場で物が売れる、そういう人がいないと回っていかない。
④需要の変化に対応した新たな商品づくり	・地域の活性化には6次産業も必要。販売や加工にノウハウを持つ地域の食品企業と連結した取組が重要ではないか。		
	・新たに起業しようとする人は機械が欲しくても値段が高くて買えない。設備、場所を提供してほしい。		

政策	施策	主な取り組み	委員意見
1 変化に対応した強い農林水産業の創出	(2) マーケットインの商品づくりの加速	①マーケットに対応した流通体制づくり	・トマトのブランド化により、1億円をそのブランド商品が占めるようになった。ブランド化だけで売れるわけではないが、ブランド化には非常に大きな功績があったと思う。
			・大手スーパーで大分の食材を大々的に売り込む話があったが、産地との調整で頓挫したと聞いている。県がタイアップするとか、卸業者を含めて団結して取り組みれば、やれるのではないかと。
			・かぼすブリ、かぼすヒラメなど地元産品を取り扱うときに、流通の仕組みをわかりやすく手に入れやすいような形にして欲しい。
			・かぼすヒラメ、かぼすブリなど県外に発信しているが、地域の業界にも地産地消の情報を教えてほしい。どこにいけば手に入るのか、我々旅館も使えるのか、流通はどうか、などを教えてほしい。
			・かぼすブリなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。
			・カボス、かぼすヒラメ、かぼすブリなど、地元の人がブランドと思っても、県外の人はまだ知らない人が多い。
			・地産地消で県民向けにPRしてもらいたい。ブランド化で県外には頑張っているPRしてもらっているが、県民が知らないのではないかと。
			・食品加工分野で、食品加工された素材をいかに売っていくかが課題。味も大切だが、イメージも非常に大きい。コンテストを実施するとか、工業デザインとタイアップする形で県でイメージを作っていくとか、何か売り込む支援ができないか。
		②産地間競争に打ち勝つ生産体制づくり	・カボス、かぼすヒラメ、かぼすブリなど、地元の人がブランドと思っても、県外の人はまだ知らない人が多い。
			・トマトのブランド化により、1億円をそのブランド商品が占めるようになった。ブランド化だけで売れるわけではないが、ブランド化には非常に大きな功績があったと思う。
	(3) 経営マインドを持った力強い担い手の確保・育成	①中核的な担い手の育成	・営農組織を作って農地を守って行きたいと考えている集落も多いと思うが、集落・組織を引っ張っていくリーダーがいない。
			・地域の農地を守っていくのは集落営農が中心だが、経営の実態は補助金・交付金頼み。自立できるように経営改革が必要である。
			・農業は経営者と労働者が一緒。農業の将来を考えた場合、経営者と労働者を分離して、雇用型の農業を志向していく必要があるのではないかと。
			・県内には相当数の集落営農組織があるが、女性の組合長は一人もいない。女性の組合長、理事、役員がいても良いのでは。女性の活力の育成が必要。
			・集落営農法人のリーダーの中に女性が一人もいない。女性の活力が必要。必ず役員に女性が入ってもらえるようなことはできないか。
			・農林水産業ではそれぞれの地域にそれぞれ団体がある。それを一つにまとめるデザイナー的人材の育成が必要。デザイナー的というのは、全てに精通し、先を見通せる人。地域の業界の発展につながる。
			・技術・経営管理を磨く場を積極的に作ってもらうとともに、規模に応じた研鑽のための部会を作ってほしい。経営規模に応じた部会でなければ、悩みの解決方法が出てこないのではないかと。
			②担い手を支えるシステムの強化
		・国の補助事業もいろいろあるが、要件が厳しく、地域の実情に合っていない。頑張っている組織、経営体を使いやすい補助事業の仕組みが必要。また、条件不利地域が国に逆提案することも必要ではないかと。	
			・研究開発チームを持ちたいが難しい。研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業ももっと発展する可能性が広がる。

政策	施策	主な取り組み	委員意見
1 変化に対応した強い農林水産業の創出	(4) 元気で豊かな農山漁村の継承	①地域資源を活用した価値の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい子供が、県産品に慣れ親しむ機会が増えると良い。小学校の工場見学は印象深く、親しみという意味でも、地元の企業を知るといった意味でも、そういった活動がたくさん増えると良い。</li> <li>・学校給食でも県産魚を使ってもらっている。遠回りかもしれないが、小さい頃から教えであるとか、親しみを感じさせることで、県産品の消費につながっていくのではないかと。</li> </ul>
		②快適で元気な農山漁村づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年が異常気象で、自然災害も発生。長期的に異常気象対策や自然災害への備えが必要。</li> <li>・農村では高齢者の活用も考えなければならない。</li> </ul>
		③鳥獣害対策の効果的な推進	
2 多様なしごとを創出する産業の振興と人材の確保	(1) 多様で厚みのある産業集積の推進	①大企業や研究機関等の活用による新たなイノベーションの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業がもっと発展する可能性が広がる。</li> <li>・研究開発チームを持ちたいが難しい。研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業がもっと発展する可能性が広がる。</li> </ul>
		②地場企業の活躍の場を広げる産業集積の推進	
		③農商工連携等による食品産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品加工分野で、食品加工された素材をいかに売っていくかが課題。味も大切だが、イメージも非常に大きい。コンテストを実施するとか、工業デザインとタイアップする形で県でイメージを作っていくとか、何か売り込む支援ができないか。</li> <li>・地域の活性化には6次産業も必要。ただ、研修会では自己完結型の話が多い。農業者はものを作ることはプロだが、売るという能力は劣っているように思う。販売や加工にノウハウを持つ地域の食品企業と連結した取組が重要ではないか。</li> </ul>
		④東九州メディカルバレー構想の推進による医療機器産業拠点づくり	
		⑤地域の特色と強みを活かしたエネルギー産業の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メガソーラーをやっているが、九州電力の再生可能エネルギーの買い取り中断の影響は大きい。エネルギーの出口戦略や将来を見据えた戦略を考えておかなければならない。</li> </ul>
	(2) 未来に向けた戦略的・効果的な企業立地の推進	①時代の変化、産業集積の深化に対応した企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材のマッチングは難しいと思うが、どこでも人材が足りないと聞いている。働く環境や賃金の問題も含め、事業としてうまく作り出していくという意識が必要ではないか。1ターン・Uターンのためにも、賃金の問題は考えていく必要がある。</li> <li>・県内の人を採用した企業にメリットがあるような施策を組んでもらえないか。</li> </ul>
		②労働力の確保	
		③産業集積効果を活かした県内企業の強化	
	(3) チャレンジする中小企業と創業の支援	①創業の裾野拡大と新たな付加価値を生むベンチャーの輩出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来もやっているが、ビジネスインキュベーションセンターをもっと活用すべき。インキュベーションとベンチャーファンドの連携をもっと密接にして、技術と経営、それをバックアップする金融が一体化することによって新たな創業ができやすくなる。</li> <li>・経営者の高齢化が進んでいることから、事業継承さらには廃業を支援するといった取組ができないか。県外企業に買収される前に、地域に根ざした大分を愛する企業をつくっていくという意味で、事業継承の取組は大事。</li> </ul>
		②地域経済を牽引する企業の創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材のマッチングは難しいと思うが、どこでも人材が足りないと聞いている。働く環境や賃金の問題も含め、事業としてうまく作り出していくという意識が必要ではないか。1ターン・Uターンのためにも、賃金の問題は考えていく必要がある。</li> <li>・CSV(社会価値を向上させる取組により企業価値を増大させること)に前向きに取り組む企業を後押しする施策はできないか。</li> <li>・CSRは対外的なことばかりじゃなくて、社内でリーダーを作っていくのに非常に有効なので、取組を進めてもらいたい。</li> <li>・企業の経営者がもう一つ上の段階を目指す時の教育・経験が足りない。大分は1億円以下の会社が多い。1億円、3億円になれるような経営者向けの教育支援はできないか。</li> </ul>
		③新分野への挑戦支援等による地場中小企業の振興	
		④金融支援策の充実・強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来もやっているが、ビジネスインキュベーションセンターをもっと活用すべき。インキュベーションとベンチャーファンドの連携をもっと密接にして、技術と経営、それをバックアップする金融が一体化することによって新たな創業ができやすくなる。</li> </ul>

政策	施策	主な取り組み	委員意見
2 多様なしごとを創出する産業の振興と人材の確保	(3) チャレンジする中小企業と創業の支援	⑤中小企業の多様なニーズに対応する支援体制の整備	・食品加工分野で、食品加工された素材をいかに売っていくかが課題。味も大切だが、イメージも非常に大きい。コンテストを実施するとか、工業デザインとタイアップする形で県でイメージを作っていくとか、何か売り込む支援ができないか。
			・研究開発チームを持ちたいが難しい。研究開発を受託する機関・組織を作ってもらえないか。いろんな分野で研究開発を受託するような組織があると、地元企業がもっと発展する可能性が広がる。
			・産業科学技術センターに研究を依頼したところ、一部対応できない項目があった。一連の流れで研究受託してほしい。
			・県内には優秀な人材はいるが、マネジメントができる人、管理者になれる人が少ない。人に指示できたり、物事を的確に整理するという能力を教育できないか。
			・今のものづくりはデザイン性が問われる。そこにヒントがあるのでは。アートと工業を組み合わせ、工業デザインで特色を出すというのも良いのではないか。
			・事業をするときに大分の産業をうまく使うような仕組み、もしなければせめて国内のものを使うといった施策ができないか。
	(4) 商業の活性化と新たなビジネスの育成	①環境変化に対応した商業の振興 ②県産品の販路開拓・拡大による物産振興 ③多様化するニーズに対応したサービス産業の振興	・海外の需要を取り込むには、それに取り組む人が一番重要。語学ができて、その場で物が売れる、そういう人がいないと回っていかない。
			・坐来は味や場所も良く、評判が良い。ただし、物産の展示や販売がなく、情報発信が少ないのではないか。
	(5) 急速に進化する情報通信技術の普及・活用	①ICTの新たな潮流を捉えた新サービスの創造 ②県内津々浦々における快適な情報通信環境の提供 ③ICTを活用した行政手続きの効率化とサービスの向上	・ビックデータの活用を積極的に取り組んで欲しい。活用案のコンテストのようなものを開催して、良いものは事業化するのはどうか。チャレンジして新しいサービスを開発していけるような環境ができると良い。
			・ビックデータの活用を積極的に取り組んで欲しい。活用案のコンテストのようなものを開催して、良いものは事業化するのはどうか。チャレンジして新しいサービスを開発していけるような環境ができると良い。
			・小さな頃からITとか理系科目に親しめるよう、小さな子供向けのプログラミングの勉強会などを増やしてほしい。
			・情報通信基盤の整備で、ネットがつながる環境を県内至る所に拡げて欲しい。
	(6) 産業人材の確保・育成とワーク・ライフ・バランスの推進	①女性・高齢者・若者等の就業ニーズに対応した労働参加の促進 ②きめ細かなUIJターンの推進	・人材のマッチングは難しいと思うが、どこでも人材が足りないと感じている。働く環境や賃金の問題も含め、事業としてうまく作り出していくという意識が必要ではないか。Uターン・Iターンのためにも、賃金の問題は考えていく必要がある。
			・若い人の雇用にミスマッチがある。事業所そのものの内容が伝わっていない。事業所サイドに大きな責任があるが、アピールの仕方、地元産品や企業の紹介など、県にもそのあたりを支援してもらえないか。
			・出産後の女性が働きやすい環境をどれだけ整えるかが重要。何か仕組みを作って、女性が勤務を継続していくことに対して支援をするとか、企業にとってもプラスになるような仕組みづくりはできないか。
			・外国人労働者の受入れについて、今はハードルが高い。専門的知識を持っていて、日本人よりも優秀な人にしかビザがおりない。外国で教育を済ませた人を連れてこれるような仕組み、外国人がブルーカラーで働ける施策はないか。
・5年間地元の高校の新卒者を採用してきたが来年度はゼロ。少子化の波が来ている。水産加工組合は人を欲しがっているが人がいない、という状況。外国人研修生を受け入れないと、産業を継続できない。受入れ側の人へのヒアリングをして、現状を知って欲しい。			
・小さい子供が、県産品に慣れ親しむ機会が増えると良い。小学校の工場見学は印象深く、親しみという意味でも、地元の企業を知るという意味でも、そういった活動がたくさん増えると良い。			

政策	施策	主な取り組み	委員意見
2 多様なしごとを創出する産業の振興と人材の確保	(6) 産業人材の確保・育成とワーク・ライフ・バランスの推進	③多様な働き方の普及によるワーク・ライフ・バランスの推進	・ワークライフバランスの実現を妨げていることに、長時間働くことが熱心に働いている証拠だという価値観が、まだ抜けていないこともある。若い人の意識はかなり変わってきたが、上に立つ経営者や幹部の方の意識が変わらないと実現しないので、その取組が何かできないか。
			・ワークライフバランスで、多様な働き方といっても、実際にどうすれば良いかわからない事業者がいると思うので、仕組みとか具体的な取り組み方法を例示したものがあれば進むのではないかな。
			・女性を積極的に活用するために、会社内に託児所を作りたいと思っているが、保育士を雇うとなると色々な面でハードルが高い。近所のおばあさんを雇って運営できるような規制緩和を支援してもらえないか。
3 男女が共に支える社会づくりの推進	(1) 男女共同参画社会の構築と女性の活躍推進	①男女共同参画の視点に立った意識改革と環境整備	・女性の活用について、自由な時間に働くというのは大切だが、責任ある地位で働くという意味でも女性の活用も考えていく必要があるのでは。女性の方にも意識が足りない。自分の人生のやりがい、生きがいとしてきちんと職業を持つ、きちんと社会に参画していくことが大事。
			・出産後の女性が働きやすい環境をどれだけ整えるかが重要。何か仕組みを作って、女性が勤務を継続していくことに対して支援をするとか、企業にとってもプラスになるような仕組みづくりはできないか。
		②男性・女性が共に働きやすい社会の実現	・ワークライフバランスで、多様な働き方といっても、実際にどうすれば良いかわからない事業者がいると思うので、仕組みとか具体的な取り組み方法を例示したものがあれば進むのではないかな。
			・ワークライフバランスの実現を妨げていることに、長時間働くことが熱心に働いている証拠だという価値観が、まだ抜けていないこともある。若い人の意識はかなり変わってきたが、上に立つ経営者や幹部の方の意識が変わらないと実現しないので、その取組が何かできないか。
③女性の登用拡大			
4 人を呼び込み地域が輝くツーリズムの推進	(1) インバウンドと国内誘客の推進	①インバウンド対策の強化	・ツーリズム戦略ができたことで、来年のDC誘致という目標を達成できた。情報発信もでき、これからは売り込みへの段階。今度は、2020年の東京オリンピックに向けて、中期的なツーリズム戦略をやっていたきたい。
			・おんせん県おおいの核となる別府にもっと頑張ってもらいたい。海に面している温泉地はなかなかない。東京とこちらの温度差が非常にある。自然の素晴らしさはいっぱいあるから、あるものをうまく利用して欲しい。
			・外国人の観光客が増え、それに伴って裕福な観光客も増えた。不景気が続いたので安いお得感のあるサービスの開発は進んだが、それ以外のニーズに応えられるサービスは足りているか。
			・外国人の観光客へのケアもまだまだ進んでいない。統一してみんなの情報発信できるといいが。
			・かぼすぷりなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。
		②国内観光客確保策の推進	・地元の宿や施設が、地元の食材を使い、それを自慢しながらお客さまに召し上がっていただく活動が、足元でとても大切。食材と地元施設とのマッチングをやってもらいたい。
			・ツーリズム戦略ができたことで、来年のDC誘致という目標を達成できた。情報発信もでき、これからは売り込みへの段階。今度は、2020年の東京オリンピックに向けて、中期的なツーリズム戦略をやっていたきたい。
			・旅は個人化、少人数になる傾向にあり、滞在型になっている。目的・テーマを持っている人が多く、高級志向が増えている。これからはひとつの拠点をもって、そこから面的に広げていくスタイル、アクティビティコースを充実させることが大切なのではないか。
			・女性とアクティブシニアをターゲットにしたコース作りをしてみようか。出雲大社縁結びのようなパワースポットは大分にも一杯ある。うまく伝えていって地域に呼び寄せてはどうか。
			・おんせん県おおいの核となる別府にもっと頑張ってもらいたい。海に面している温泉地はなかなかない。東京とこちらの温度差が非常にある。自然の素晴らしさはいっぱいあるから、あるものをうまく利用して欲しい。
③広域連携の強化	・湯布院から別府はすごく遠いイメージを持っているが、実は30～39分で行けるとかは意外と知られていない。このあたりのところを、関西方面へのプロモーションとしてどう情報発信するかを検討していくべき。		
	・2次交通について、別府には一日乗り放題のぐるすば号(路線バス)がある。平成23年にスタートし25年で乗客が2倍になった。乗り合いバスで2倍というのは奇跡的。国東や県南ともつなぐことができないか。路線バスを使って活性化というののポイントになる。		
	・高速度道路ができれば、米水津、鶴見、蒲江は忘れられるのではないかと危機感がある。シーニックバイウェイ(日本風景街道)で、国交省が広報活動を良くしてくれている。県でも忘れ去られない対策をお願いしたい。		

政策	施策	主な取り組み	委員意見
4 人を呼び込み地域が輝くツーリズムの推進	(2) おんせん県おいたの地域磨き	①観光人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光業界も人材不足と定着率の問題がある。おんせんコンシェルジュの取組をスタートしているが、位置づけを高めていき若い人がこの業界に入ってきたくなるような魅力づくりの取組を進めて行きたい。</li> <li>・観光振興の継続的な取組には、スペシャリスト・人材の育成が欠かせない。経験やノウハウを蓄積していく仕組み作りも必要。</li> <li>・観光客を受け入れるにあたり、サービス業のおもてなしのレベルに差がある。サービス業の人材を育て、おもてなしのレベルを統一するために、サービス検定の実施や勉強会を開催してはどうか。</li> <li>・観光の面でおもてなしのレベルを一定以上に上げていくことが重要。一定規模の業者には県内で統一したサービスが提供できるように支援してはどうか。</li> <li>・別府への観光客は減っていないが、素通りされて、宿泊客が減っているのではないかと。宿泊施設はたくさんあるが、何か魅力が足りないのではないかと。</li> </ul>
		②おんせん県ならではの素材磨きによるブランドイメージの確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別府への観光客は減っていないが、素通りされて、宿泊客が減っているのではないかと。宿泊施設はたくさんあるが、何か魅力が足りないのではないかと。</li> <li>・湯布院から別府はすごく遠いイメージを持っているが、実は30～39分で行けるとかは意外と知られていない。このあたりのところを、関西方面へのプロモーションとしてどう情報発信するかを検討していくべき。</li> </ul>
		③観光消費の増大につながるサービスや商品の開発促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・別府への観光客は減っていないが、素通りされて、宿泊客が減っているのではないかと。宿泊施設はたくさんあるが、何か魅力が足りないのではないかと。</li> <li>・地産地消は魅力。地元の食材を使った料理、地元のお酒、麦焼酎。おんせん県おいたのウィーク、マンスリーとかを作って、大分みんなで一緒になって稼ぐ、というのはどうか。パワーを集中させて情報発信していく。</li> <li>・アート、農林水産品のブランド化、特産品の開発などは、金融面の施策としてクラウドファンディングがある。地域おこしでこの手法を活用してはどうか。</li> </ul>
		④観光関連産業の持続的成長と雇用拡大	
		⑤景観の再生とツーリズム基盤の整備	
5 海外戦略の推進	(1) 海外に開かれたネットワークづくり	①海外の活力を取り込む	
		②海外の人材を取り込む	
		③国際交流・国際貢献の推進	
		④国際人材の育成	・海外の需要を取り込むには、それに取り組む人が一番重要。語学ができて、その場で物が売れる、そういう人がいないと回っていかない。
6 大分県ブランド力の向上	(1) 戦略的広報の推進	①「おんせん県おいた」としての統一イメージの浸透	
		②信用力のある世界ブランド・地域ブランドの活用	
		③広報と政策の連携強化とそれを活かした商品づくりとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かぼすぷりなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。</li> <li>・トマトのブランド化により、1億円をそのブランド商品が占めるようになった。県外にも多く出荷している。ブランド化だけで売れるわけではないが、ブランド化には非常に大きな功績があったと思う。</li> </ul>
		④ターゲットを明確にした広報の時期・場所・媒体の最適化	・湯布院から別府はすごく遠いイメージを持っているが、実は30～39分で行けるとかは意外と知られていない。このあたりのところを、関西方面へのプロモーションとしてどう情報発信するかを検討していくべき。
		⑤海外広報の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の観光客へのケアもまだまだ進んでいない。統一してみんなで情報発信できるといいが。</li> <li>・女性とアクティブシニアをターゲットにしたコース作りを試してみようか。出雲大社縁結びのようなパワースポットは大分にも一杯ある。うまく伝えていって地域に呼び寄せてはどうか。</li> <li>・おんせん県おいたの核となる別府にもっと頑張ってもらいたい。海に面している温泉地はなかなかない。東京とこちらの温度差が非常にある。自然の素晴らしさはいっぱいあるから、あるものをうまく利用して欲しい。</li> </ul>

政策	施策		主な取り組み	委員意見
7 活力みなぎる地域づくりの推進	(1)	地域の元気の創造	①元気で活気あふれる地域づくりの推進	<p>・地産地消は魅力。地元の食材を使った料理、地元のお酒、麦焼酎。おんせん県おいたのウィーク、マンスリーとかを作って、大分みんなで一緒に稼ぐ、というのはどうか。パワーを集中させて情報発信していく。</p> <p>・地域の文化が農山村のコミュニティーを維持してきた。維持していくためにも後継者や外部から来た新規就農者が、そういう文化に溶け込めるソフト事業が欲しい。</p> <p>・高速道路ができれば、米水津、鶴見、蒲江は忘れられるのではないかという危機感がある。シーニックバイウェイ(日本風景街道)で、国交省が広報活動を良くしてくれている。県でも忘れ去られない対策をお願いしたい。</p> <p>・これまで集会所を作ってきたが、今度は集会所がたくさんできすぎて、その維持管理が大変。いろんなものを作るときには、10年20年先を見据えて計画することが大事。</p>
			②UIJターンの促進	
			③空き家の利活用の推進	空き家の利活用で、家主が貸してしまうと返してもらえないという不安があって踏み切れないという話を聞く。不安を打ち消すような何らかの新しい仕組みづくりが必要。
			④特徴ある地域づくりの展開	・高速道路ができれば、米水津、鶴見、蒲江は忘れられるのではないかという危機感がある。シーニックバイウェイ(日本風景街道)で、国交省が広報活動を良くしてくれている。県でも忘れ去られない対策をお願いしたい。
			⑤地域に活力を生み出す経営基盤の安定と仕事づくり	・アート、農林水産品のブランド化、特産品の開発などは、金融面の施策としてクラウドファンディングがある。地域おこしでの手法を活用してはどうか。

政策・施策体系骨子(案)と委員意見対比表【安心分野】

政策	施策		主な取り組み	委員意見
5 安全・安心を実感できる暮らしの確立	(5)	食育を通じた人づくり・地域づくりの推進	②食育を通じた活力ある地域づくり	<p>・かぼすヒラメ、かぼすブリなど県外に発信しているが、地域の業界にも地産地消の情報を教えてほしい。どこにいけば手に入るのか、我々旅館も使えるのか、流通はどうか、などを教えてほしい。</p>
				<p>・かぼすブリなどを出しているお店の宣伝や、どこで食べられるのか、などの情報発信をして、アクセスしやすい状態にしてはどうか。</p>
				<p>・スーパーに直販のコーナーがあるのは非常に良い。スーパーと直販がうまく機能している。もっとうまくやっていると、さらに地域の食材が一般の家庭レベルに伝わっていく。</p>
				<p>・地産地消で県民向けにPRしてもらいたい。ブランド化で県外には頑張っているPRしてもらっているが、県民が知らないのではないかと。</p>
				<p>・小さい子供が、県産品に慣れ親しむ機会が増えると良い。小学校の工場見学は印象深く、親しみという意味でも、地元の企業を知るという意味でも、そういった活動がたくさん増えると良い。</p>
				<p>・地元の宿や施設が、地元の食材を使い、それを自慢しながらお客さまに召し上がっていただく活動が、足元でとても大切。食材と地元施設とのマッチングをやってもらいたい。</p>
				<p>・子どもが小さい頃から、教えであるとか親しみを感じさせることで、県産品の消費につながっていくのではないかと。</p>
7 地域社会の再構築	(2)	ネットワーク・コミュニティの構築	①地域のネットワークづくりと担い手の多機能化	<p>・Uターンして集落を守ってもらおう一つの方策として、県外に出て行っている人でも、本籍地を残している人は郷土に戻ってくる意識があるのでは。そういう人に声をかけるのも手ではないかと。</p>